

【学生フォーラム】

造形系ゼミナール（石川ゼミ）の研究活動報告

岡崎女子大学 城戸雪乃 倉田里帆

要旨

岡崎女子大学子ども教育学部の学生は、卒業するとほとんどが小学校教員・保育者になっていきます。それを踏まえて、3年生で造形ゼミを専攻した筆者たちが、本学の学びにおいて、造形に的を絞って1, 2年生でどのような学修をし、3年生でゼミに分かれてから、どのような学びを積み上げ、4年生になって最終的にどのような卒業研究を行うかを報告します。

1. 造形に関する授業内容（1～4年生）

1年生では、「造形」という授業で、子どもたちが取り組むことのできる造形技法を学びます。「表現技術演習（造形）Ⅰ」では、子どもたちが使う素材や道具について学びながら、それに関する制作を行います。また、子どもたちの発達に沿って、どういう造形表現が現れるか、子どもの絵を使って学びます。

2年生では、「子どもと表現」という授業で、表現活動としての舞台作品の作成、実演を行います。その授業では具体的には衣装の作成を行います。「表現技術演習（造形）Ⅱ」では、先生役と子ども役に分かれ、造形に関する模擬保育を行います。子ども役にはいろいろな表現活動を体験してもらい、先生役は保育技術を学びます。

3年生になると、ゼミ配属が行われます。筆者所属の造形ゼミでは、3年生、4年生の前期、2～3人のグループに分かれ、各グループが立案・計画したプログラムを全員で取り組みます。内容は、1, 2年生で扱っていない素材のものづくりの体験や、付属幼稚園や美術館などで、子どもたちに向けた造形あそび、ワークショップを企画し行います。

4年生になってからの造形ゼミでは、各自の活動を総括し、卒業研究のテーマを考え、最後に卒業研究を完成させます。卒業研究は保育・教育に関係した作品制作とその制作について報告書を執筆します。

2. 3年生で行う研究活動

ここでは、令和5年度3年生の筆者たちが、自分たちで計画し、実際に取り組んだ活動について報告します。ものづくり活動と子どもへの造形指導活動です。

（1）クレヨンキャンドル作り（学内制作）

使わなくなったクレヨンを活用し、キャンドル作りを行いました。クレヨンは顔料と多くのロウ分を含んでいるため、キャンドルの成分としては適しています。まず、削ったクレヨンとパラフィン油を、湯煎で溶かし（図版1）、次に、芯を入れた紙コップに流し込みます。その時、割り箸を使って芯の位置を固定します。みんな思い思いの色を使ったので、色とりどりのキャンドルが完成しました。

（2）とんぼ玉づくり（学外制作）

ガラスアクセサリーを販売しているお店で、とんぼ玉づくりを



図版1

行いました。私たちが経験した作り方は、色とりどりのガラス棒をバーナーで熱し、溶けだしたらステンレス製の金属棒に巻き取って、玉を作っていく方法です(図版2)。最後に細いガラス棒を溶かし、模様をつけて完成させます。冷却する時は空気中で冷やすと、急激に冷やすことになり、クラックが入ってしまうため、灰に入れてゆっくり冷やして固めていきます。

(3) 付属幼稚園造形遊び指導(「くるくる鳥づくり」)

付属幼稚園の年中児に造形あそびの体験をしてもらう計画を立てて、実施しました。身近な素材である、画用紙、割り箸、ビニールテープなどを使用し、くるくる鳥をつくり、遊びました(図版3)。ゼミ生7人が3クラスに分かれて先生役を行い、遊ぶ楽しさを感じてもらうことを目標に取り組みました。年中児に作り方を理解してもらうために大きな見本を作り、目で見てわかるように工夫もしました。最後はテラスに出て、飛ばして遊びました。

(4) おかざき世界子ども美術博物館での造形あそび指導(「フーフーヒョコヒョコいきものレース」)

美術博物館に訪れた子どもたちを対象に、ものづくりワークショップを豊橋創造大学の加藤ゼミの方と共同で行いました。初めて出会う、しかも年齢の違う子どもたちだったため、教え方に工夫が必要でした。作り方の資料は、説明文を少なくし、イラストを多用して、子どもたちにわかりやすくして、準備しました。制作後は、みんな楽しく遊びました(図版4)。



図版2



図版3



図版4

3. 4年生の卒業研究

4年生になると、今までの学びを総括し、各自が卒業研究のテーマを決めて取り組んでいきます。以下はこの2年間の先輩たちの卒業研究のタイトルです。

「保育カードの制作 発達に遅れがある子どもたちのために」「実物の種子を用いた植物絵本の制作」「遊びを通して学ぶ縫い取り教材の開発」「折り紙を使った透明積み木の制作」。

また、学校教育コースを選んだ先輩たちは、「児童の困り感に寄り添う時計の教材づくり」「図画工作と家庭科の教科横断的な教材の提案 マイユニホームをデザインして作ろう」でした。

4. まとめ

今回は、筆者たちが3年生ということもありますが、個人の卒業研究ではなく、子ども教育学部の造形系ゼミの活動を概観する発表を行いました。子どもの造形の学びを追究しながら、教授することも学び、最後は自らの卒業研究を仕上げていくことがわかっていただけだと思います。